ポケトピア：アンヒンジド2 〜ダークライの逆襲〜

Chapter 1 : **4度目の正直**

**プロローグ：200年の闇、独りきり**

ティンカトンにモグラ叩きされた直後、そしてゲンガーが贖罪を果たす少し前のこと――

ダークライは200年間、夢の中に閉じ込められていた。自らの精神牢獄にて眠り続けていたのだ。

その刑期の69年目、彼はポケモン全体への復讐を思い描くようになった。ひねくれたビジョンが脳裏に現れる。それは――

「TIMI TIMMY社」

復讐の炎に包まれながらも、あまりの名前のダサさにダークライはしかめ面をした。  
だが、何か…何かが彼をその名へと引き寄せた。

念力を使い、意識を街から遠く離れた地へ投影する。そこに「ダークキャッスル」の建設予定地をマークした。次なるガチャマシンが再出現すると予測した地点だった。

そして200年目。彼は現実世界で目覚めた。

それから数ヶ月、彼は静かに城を築き、曖昧な研究に没頭していた。  
――そして、ついにその時が訪れた。

バリヤードの敗北後、レックウザが三度目の死を遂げたその日、予見どおり、ガチャマシンが復活した。

だが、ダークライはまだ準備が整っていなかった。

さらに数ヶ月を費やし、彼はその仕組みを学び、破損したAIスクリプトやバグまみれの召喚記録を読み漁った。

そして今――  
ビーチでの平和が過ぎ去ったあと、  
ついに、最後の鍵が完成した。

それは「支配」。

スカミーなドラゴン、レックウザが――  
四度目の召喚で、再びこの世界に解き放たれる。

**レックウザ4.0――マルチ商法界のプレゼン神**

ダークライの“悪夢明け再調整”から誕生した、第四のレックウザは、もはやかつてのような脆くて派手なだけのドラゴンではなかった。

レックウザ4.0は今もなお、テック系エキスポに潜むカルト教団の教祖のような勢いで、確率操作されたバナーやルートボックスを売り歩く。  
だが、その構造はすでに別物になっている。

この新バージョンは：

* バークアウト一撃で消し炭にされた旧型とは違い、「ダークパルス耐性コーティング」と「ご都合主義ファームウェア」で補強されている。
* 自動売却ロジックを搭載し、話しながらでもバナーを売り続けられるパッシブ収益型AI。
* 相変わらずド派手でうるさいが、今やネタにされても消滅しにくい存在。

ダークライは闇の中からそのマルチ商法ビーストの復活を見届け、静かに呟く。

「今回はな……  
詐欺が永遠になるんだよ。」